

平成18年度石油学会賞にて3件を受賞！
～「野口記念賞」、「技術進歩賞」を受賞～

記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループは、「高過酷度流動接触分解装置『HS-FCC』」、「改質硫黄固化体『レコサール』」、「はっ水処理活性炭を用いた硫酸副生型排煙脱硫装置の開発」の三つの技術に対し、平成18年度石油学会賞の「野口記念賞」と「技術進歩賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

社団法人石油学会は、石油・天然ガス開発、石油・石油化学工業などについて産学両面にわたって幅広く活動を行っている国内で唯一の「石油」に関する学会で現在約5,000人の会員を擁しています。

『HS-FCC』が受賞した「野口記念賞」は、わが国の石油および石油代替エネルギーの安定供給に貢献する研究・技術において、多大な功績のあったものに与えられる賞です。

また、『レコサール』と「はっ水処理活性炭を用いた硫酸副生型排煙脱硫装置の開発」が受賞した「技術進歩賞」は、石油・天然ガスおよび石油化学工業、ならびにこれらに関連する個々のプロセス・装置について、技術開発や改良を行い、すぐれた業績をあげたものに与えられる賞です。

『HS-FCC』は、従来の流動接触分解(FCC)※プロセスに比べプロピレン回収率を高めることに成功し、サウジアラビアにおける30バレル/日の実証試験で実用化に目処をたてたことが評価され、受賞につながったものです。

『レコサール』は、原油から各種石油製品を製造する過程で分離される硫黄に、石炭灰・ホタテの貝殻など他産業からの副産物を組み合わせて建設材料を開発した技術力が評価されました。

「はっ水処理活性炭を用いた硫酸副生型排煙脱硫装置の開発」は、はっ水処理によって長寿命化した新規開発触媒の処理技術により、無廃棄物、無排水、高い省エネルギー性をもつプロセスを実用化したことが評価されたものです。

なお、『HS-FCC』は、財団法人国際石油交流センター、キングファハド大学(サウジアラビア)、サウジアラムコとの共同研究、『レコサール』は、財団法人石油産業活性化センターでの事業実施、「はっ水処理活性炭を用いた硫酸副生型排煙脱硫装置の開発」は当社の石油精製部門である新日本石油精製株式会社(社長:小沢 稔)と千代田化工建設株式会社の事業での共同受賞となります。

当社は、行動規範として「New ideas」を掲げており、今後もたえず新しい発想で未来に挑戦し、ビジネスを創造することで、人々から最も支持される総合エネルギー企業を目指してまいります。

※ 流動接触分解(FCC)プロセス:重質軽油や重油を分解して主にガソリンや中間留分を作るプロセス。

以上

 『HS-FCC』、『レコサール』、「はっ水処理活性炭を用いた硫酸副生型排煙脱硫装置の開発」(PDF:89.1KB)